

学習意欲を持続させる支援について

～情意面を重視した授業の実践から～

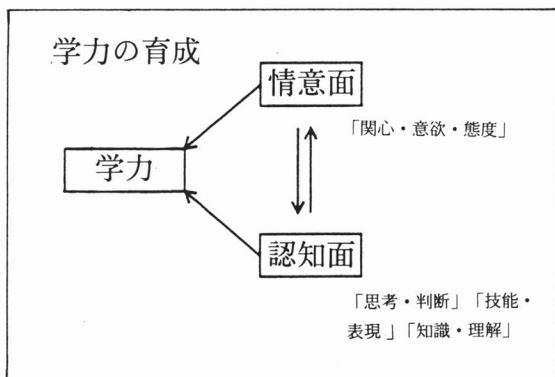
科学技術教育部

児童・生徒の情意面にいろいろな方法で働きかけを行い、その方法が児童・生徒の学習意欲にどのような影響を与えるかを、「理科」と「家庭科」で授業実践を行って調べた。学習意欲を持続させる支援についての実践研究から一部を紹介する。

I 情意面について

1 情意面と認知面の連動

「関心・意欲・態度」を情意面として、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」を認知面としてとらえ、これらと「学力」の育成の関係を次のように考える。



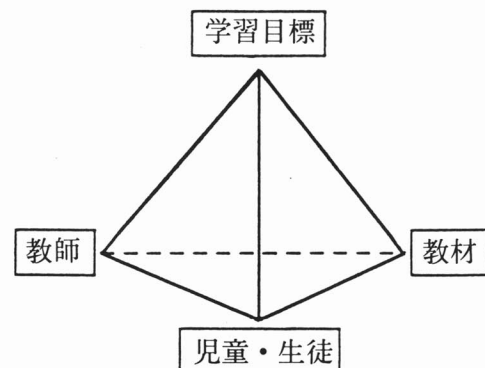
「関心・意欲・態度」といった児童・生徒の情意面は、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」といった認知面の要素と連動しているものである。

児童・生徒の学習は「面白い」「楽しい」な

どの情意面だけが単独に進むのではなく、「わかった」「できた」という認知面の高まりと連動していくものである。このような考えから、情意面を重視しながら、理解を深める学習指導の方法や技術によって授業を継続的に進めることで、学力の育成が図られるものと考える。

2 関心と意欲について

授業には「学習目標」「児童・生徒」「教師」「教材」の4つの要素があるといわれている。これらの関係は次の図のように示すことができる。



このことから考えると児童・生徒は教師と教材に支えられながら学習の目標に迫っていくといえる。児童・生徒の心には教材に対する期待と教師に対する思いや願いがあり、前者を「関心・意欲」として、後者を教師に対する「支援要求」としてとらえることにした。

研究では関心、意欲の程度を、それぞれ質問紙を使って、児童・生徒の自己評価によって調